

3次元ボリューム解釈

3D Volume Interpretation

古谷直 [1]

Tadashi Furutani[1]

[1] Paradigm

[1] Paradigm

<http://www.jpogu.org/meeting/>

コンピュータの飛躍的な大容量処理と高速化は3次元地震探査データの取得とその処理を可能にした。更なる大規模の3次元地震探査が実施されつつある。その結果、解釈の方法論における手順を変える必要が生じている。ホライゾンと断層を強力にピックするオートピックングの手法により、構造のフレームワークの解釈作業に要する時間が大幅に短縮されつつある。一方で、進歩した可視化ツールにより、例えば、断層パターン、大規模な土砂流の移動、侵食性のチャンネル、複雑に分岐したチャンネル等を構造的かつ層序的に捉えることが可能になってきた。これらの技術により、多くの場合、最初に構造解釈を終えるという従来のプロセスの完了を待たず、3次元ボリュームの中で最も有望なエリアを迅速に決定することが可能になった。つまり、有望なエリアを対象に詳細な解釈作業を実施するために、より長い時間を得ることができるようになってきた。本論文は、ある大水深のデータセットに対し適応された、これらの技術を紹介します。